特集

大学院で学ぶ意味
新たな看護を創るために

昨年47巻4号の増刊号では，博士論文を書くということについて考えてみました。今回はさらにすそ野を広げて，大学院で学ぶことの意味を考えたいと思います。

大学院に進もうとする志には，看護学の一層の専門性を身につけようとする真摯な情熱があるものと思われます。そして研究者に進む道もあれば，大学院での学びを臨床でいかす道もあります。自らの方向性を見極めていく中で，どのようなことを考え，どのようなことを学ぶのか。そして大学院はどのような知を提供するのか。

本特集では，1つの手がかりとして，大学院における研究を中心に据え，その問いの発見と精錬のプロセスの中で，大学院生の方々が研究者になるためのビジョンをどのように描いていくのかを追いながら，大学院で学ぶ意味を探ります。それと同時に，指導にあたった教員の方々にもコメントを寄せていただくことで，研究する者と指導する者とのメンターシップの一端を見いだせたらと思います。

これから大学院で学ぼうとする方々，また今回登場いただく執筆者と同じ立場で学んでいる方々，そしていま第一線に立たれている研究者の方々とともに，考えていきたいと思います。

『看護研究』編集室

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2015

2026/10/15 04:33:05